

# 会員訪問

155

先生(39) 先生(34)  
ひさ久代 先生(34)  
たか貴朋  
が賀が賀  
こ古こ古

(眼科こがクリニック・熊本市八王寺町)  
※古賀貴久先生にインタビューしました。



「手術を患者さんの家族に公開されているそうですね」

手術室の一面をガラス張りにして、患者さんの御家族に手術をご覧いただいております。ずっと以前から、開業したらこのようにしようと思っておりました。

「そう思われたのは」

これまで数多くの手術を執刀してきました。患者さんと御家族に、十分な時間をとって眼球模型やイラストを使いながら、わかりやすく術前説明を行うように努めてきました。しかし、こちらが思っているほど、患者さんや御家族が理解されていないことも多く、真のインフォームドコンセントからは程遠いのではないかと感じていました。当院を開業するにあたって、「わかりやすい医療」を理念のひとつに掲げました。手術の全過程を実際に見ていただくことで、手術という治療法への理解が得られます。手術室内では患者さんは不安になりますが、ガラス越しに家族の姿を見ることが、リラックス

スされるといふ効果もあります。

「見える医療ですね」

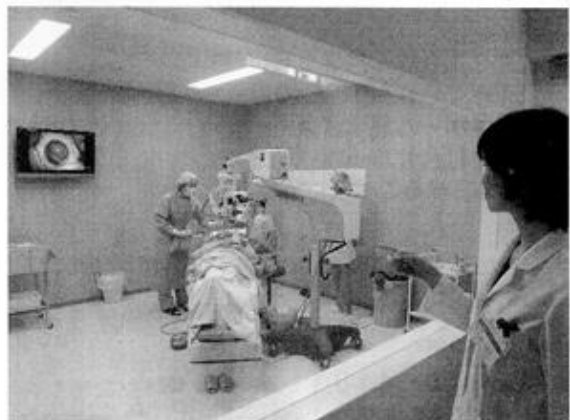
そこは一番こだわっているところですね。当院では電子カメラを使い、前部カメラと眼底カメラを二つの診察室にそれぞれ設置し、診察中に常に写真が撮れるようにしています。患者さんには、写真をお見せしながら病状を説明し、今後の治療方針について一緒に話し合いながら決めておきます。過去の写真と比較することで、病状の進行や治療効果を、分かりやすく説明することも可能です。治療のモチベーションが高まります。

「昨年一二月の開業から、今日までを振り返っていかがですか」

開院当初に手術をした患者さんから紹介されたという患者さんが、ここの二、三カ月でずいぶん増えました。自分が目指している医療が患者さんたちにもご理解されつつあるようで、嬉しく思っています。新しい治療も積極的に取り

入れておられます

患者さんのメリットになる新しい技術については、可能な限り導入したいと思っております。従来の白内障手術では、移植する眼内レンズに調節機能が無いため、遠方にピンントを合わせると近方がピンぼけになり、術後に遠近両用眼鏡が老眼鏡が必要でした。この欠点が改善された多焦点眼内レンズ(遠近両用の眼内レンズ)が、日本でも三年前に認可されました。当院では、この眼内レンズを使用した手術も行っております。多くの患者さんが日常生活で術後に眼鏡が不要になり大変満足度が高い手術です。残念ながら保険適応にはなっておりませんので、自費診療で行っています。自分の裁量で新しいよりよい技術を導入できることも開業してよかつ



副院長の解説を聞きながら、家族はガラス越しに手術を見学する。

たと感じるこのひとつですね。

「予約制で診療を」

いろいろな患者調査を見ると、患者さんの医療機関への不満のトップは長い待ち時間なので、それを改善するため予約優先制にしました。予約制にするのと患者数のムラがなくなつて、一人一人に対する診療時間をきちんと確保できるのがよいと思えました。いま予約で来られる患者さんは七割くらいでしょうか。三割くらいは予約なしで来院されます。

「先生の思いがたくさん詰まったクリニックですね」

医師を目指した時から手術をしたいという思いがあり、開業してからも手術を続けられる眼科の道に進みました。こういう医療をしたいという一〇年来の思いを形にできました。今後も研鑽を積んで、地域に質の高い医療を提供していきたいです。